



2025

環境・社会活動報告書

Environment / CSR Report

あなたへ贈る

「白の一滴、心の一滴」

― 酪農家の心を食卓へ ―



大山乳業農業協同組合

環境・社会活動報告書 2025

Environment / CSR Report 2025

■ 組合概要

名称 大山乳業農業協同組合
代表者 代表理事組合長 小前 孝夫
所在地 鳥取県東伯郡琴浦町保37-1
設立 昭和21年7月21日
出資金 8億9,220万円
取扱品 牛乳、成分調整牛乳、乳飲料、発酵乳、乳製品、
アイスクリーム、菓子等

■ 大山乳業農業協同組合の「心」

大山乳業農業協同組合のシンボルマークは「白バラ」です。「白バラ」の花言葉には、正直・純粋・そして「あなたにふさわしい」という意味が込められており、「白バラ」のように純粋で純良な牛乳の生産を原点として、心のふれあいを大切に、これからも人々の健全な暮らしづくりのために貢献していきます。



■ 編集方針

当組合は、組合員や取引先、行政などのステークホルダー(利害関係者)の皆さまに、持続可能な社会の実現に向けた取り組みをお伝えする情報開示媒体として、「環境・社会活動報告書2025」を発行しています。

【報告期間】
2025年1月1日～2025年12月31日

■ 目次

- 02 | 組合概要/大山乳業農業協同組合の「心」/編集方針/目次
- 03 | 基本理念/新たな酪農ビジョンと行動指針/SDGsへの取り組み
- 04 | 2025年注目の取り組み
- 05 | サステナビリティ
- 06 | 酪農指導部・製造部の取り組み
- 07 | 製造部の取り組み
- 08 | 製造部・販売部の取り組み
- 09 | 販売部・総合企画室の取り組み
- 10 | 2025 地域貢献活動

あなたへ贈る 「白の一滴、心の一滴」

—酪農家の心を食卓へ—

大山乳業農業協同組合は、
生産・処理・販売一貫体制の酪農専門農協として、
公正で正直な行動により、組織・事業・経営の革新を図り、
社会的役割と責任を果たすことを基本理念としています。
純白の牛乳一滴一滴にまごころを込め、
酪農家の心をそのままお届けします。

新たな酪農ビジョンと行動指針

地域と共生した 持続可能で実りある酪農

行動指針

1. 持続可能な生産基盤の実現
2. 充実した酪農経営の追求
3. 地域との共生

SDGsへの取り組み

当組合の理念に基づき、国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献し、社会的課題の解決および持続可能な社会の実現に努めます。
また、「酪農」・「ものづくり」・「環境」・「くらし」の4項目を重点課題と定め、SDGs達成に向けて取り組んでいきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



酪農

高品質な生乳生産のため、酪農家とともに乳牛の健康管理や飼育環境づくりに努め、鳥取県の酪農発展に貢献します。

環境

食品安全とともに環境配慮を経営の重要な柱と位置づけ、省エネやリサイクル等を推進し、地域環境への負担低減に努めます。

ものづくり

安心・安全でおいしい牛乳・乳製品をお客様へお届けするため、品質管理を徹底し、食の安全と品質向上に取り組めます。

くらし

「白バラらしい職員」の育成と多様な人材が活躍できる職場づくりを目指します。また、豊かで暮らしやすい地域社会の実現に貢献します。

2025年 注目の取り組み

SPECIAL TOPICS 新アイスクリーム工場安全祈願祭



新アイスクリーム工場建設に向けて 安全祈願祭が執り行われる

9月25日、新アイスクリーム工場建設に向けた安全祈願祭が執り行われ、無事故・無災害での工事完遂を祈願するとともに、牛乳での乾杯で工事関係者一同が気持ちをひとつにしました。
新アイスクリーム工場では、現在のアイスクリーム工場と同様に、バー

タイプアイス製造設備2台を導入するほか、カップアイス・モナカ等製造設備を1台から2台に増設し、合計4台の主要製造ラインが稼働する計画です。
2026年春には建屋工事へ移行、竣工は2027年春を予定しています。

SPECIAL TOPICS 製品輸出の取り組み



白バラ製品の輸出拡大 フラッグシップ輸出産地に認定

当組合では、「白バラ牛乳」をはじめとする製品の海外輸出に積極的に取り組んでいます。2025年には日本の農産物輸出拡大を目的に農林水産省が支援する「フラッグシップ輸出産地」に認定され、鳥取県内事業者として初の認定となりました。特殊パックによる賞味期限の延長や、検疫・輸送テストに取り組み、その

実績として輸出量が評価されたことが、今回の認定につながりました。さらに、9月からはオーストラリア向けにアイス製品（抹茶バー）の輸出を開始し、2026年には輸出量の増加が見込まれています。新アイスクリーム工場の稼働による製造効率の向上とあわせ、今後の売上拡大が期待されます。

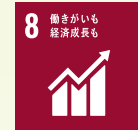
サステナビリティ

各部門の取り組み

大好きな土地を守り続けるために。

SDGs TOPICS 1 酪農指導部

全日本ホルスタイン共進会



10年ぶりの開催！鳥取県から5頭の出品

第16回全日本ホルスタイン共進会(以下、全共)が、10月25日、26日に北海道勇払郡安平町の北海道ホルスタイン共進会場において開催されました。北海道での開催は、10年前の第14回全共に続き2回目となり、39都道府県から386頭(ホルスタイン種367頭、ジャージー種19頭)の優れた乳牛が北海道に集結し、ホル・ジャージー種の比較審査のほか、付帯事業として高校生リードマンコンテストや高校生だけの親睦会などが行われました。本大会では、鳥取県 平井知事、りえ夫人が応援

団として現地で出品者と牛を激励していただきました。

全共は5年に1度の乳牛の祭典で、当初2020年に予定されていた第15回九州・沖縄大会は新型コロナウイルスの影響でやむなく中止となったため、第14回北海道大会以来、実に10年ぶりの開催となりました。鳥取県からは5頭(経産牛2頭、未經産牛3頭)の出品となり、10月18日~28日の長期間にわたって出品者、関係者が「チーム鳥取」として一丸となって頑張りました。次回の全共に向けて、よりよい結果を目指していきます。



SDGs TOPICS 2 酪農指導部

カーボンオフセットの取り組み



バイオ炭を利用したCO₂削減の取り組みが二つのアワードで受賞

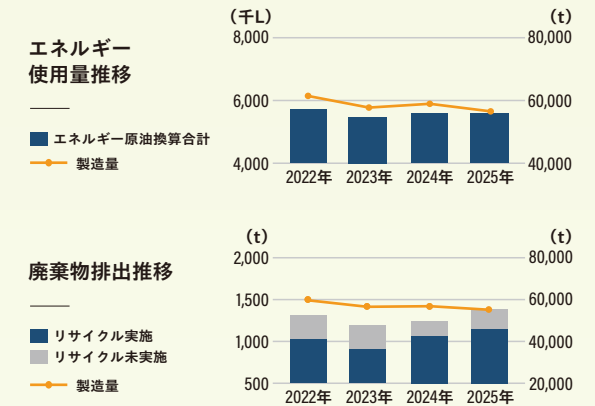
当組合では、未利用資源を活用した脱炭素の取り組みとして、汚泥由来のバイオ炭を活用したCO₂削減プロジェクトを継続的に推進しています。2024年にJ-クレジット認証を取得して以降、現場での活用状況をモニタリングし、検証を重ねてきました。その成果が評価され、農林水産省主催「ディスカバー農山漁村の宝 第12回選定」において優秀賞を受賞しました。同選定では、資材コストの削減や土壌改良効果といった農業経営上の利点に加え、年間210tの炭素を土壌に貯留するという明確な成果をあげている点が高く評価されたほか、バイオ炭活用による畜産の課題解決や、企業・研究機関との連携による官民共創の好例として、新しい酪農の姿を提示している点も注目されました。

また、鳥取県主催の「令和7年度脱炭素チャレンジカップ in 鳥取」では、地球温暖化防止に貢献する先進的な取り組みとして炭素の貯蓄量が評価され、グランプリを受賞しています。

今後は2026年のJ-クレジット販売による酪農家への利益還元を見据え、持続可能な地域循環モデルの確立を目指します。

SDGs TOPICS 3 製造部

エネルギー使用状況、廃棄物排出状況の報告



データから読み解くエネルギー使用量と廃棄物排出量の推移

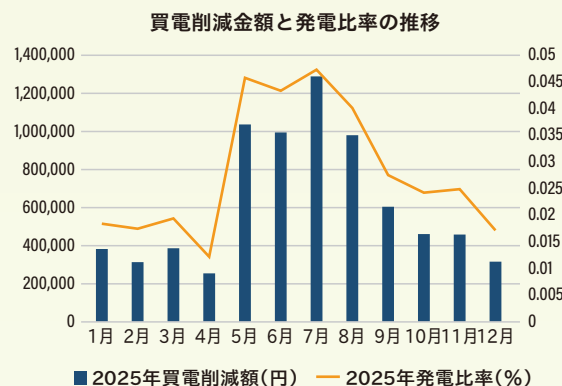
エネルギーの使用量は、生産活動の拡大に伴い増加傾向にあります。

廃棄物排出量についても、事業規模の拡大に伴い年次的に増加していますが、その一方でリサイクル実施率は継続的に向上しています。廃棄物削減の取り組みとして分別の徹底を進めた結果、廃棄プラスチックの約74%を固形燃料として再資源化することができ、環境負荷低減に着実に貢献しています。



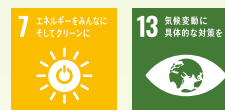
SDGs TOPICS 4 製造部

太陽光発電設備



太陽光パネル設置による
再生可能エネルギーの活用

当組合の牛乳・ヨーグルト工場の屋根には、太陽光発電パネルを設置しています。2025年の太陽光発電量は386,596kWh、発電比率は2.9%で、前年対比89.2%となりました。発電量は前年より下回ったものの、年間での買電削減額は約750万円、CO₂削減量は約203tとなり、経済面と環境面の両方で大きな成果をあげています。



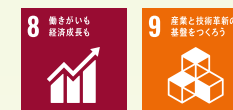
SDGs TOPICS 5 製造部

省エネルギー活動



設備の更新による
環境負荷低減とエネルギー効率改善

当組合では、冷凍設備の自然冷媒機器への転換を進めており、2025年度以降の新設・更新時には主要冷凍機を100%自然冷媒機器にする計画です。
また、設置から14年経過した6号ボイラーを高効率バーナーと最適化燃焼制御を備えた新型ボイラーに更新し、ボイラー効率約4%向上、CO₂排出量約3%削減を実現しました。次年度は1号ボイラー更新を予定しています。



SDGs TOPICS 6 製造部

新施設の建設



新資材倉庫の建設
資材の保管効率と作業効率の向上

9月、従来の資材倉庫に代わり、移動式ラックを備えた新資材倉庫の建設が完了しました。ラックを移動させることで、通路面積を最小化しています。床面積あたりの保管効率が従来の固定ラックより大幅に増え、倉庫の有効利用率が向上しました。高密度保管でも必要な資材に迅速にアクセスでき、作業効率も向上することで、経済性と利便性の両立を実現しています。



SDGs TOPICS 7 製造部

食の安全向上と品質向上



食品衛生優良施設として受賞

(公社)日本食品衛生協会主催の「令和7年度食品衛生優良施設表彰式」が開催され、食品衛生上の規範となる「食品衛生優良施設」として受賞しました。本式典は、食品衛生の一層の向上を図り、国民の食生活の安全と健康の増進に寄与することを目的としており、当組合は受賞した178施設の総代として表彰状を授与されました。今後も食品衛生のさらなる向上を目指し、より良い製品づくりに取り組みます。



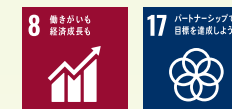
SDGs TOPICS 8 販売部

製品の認知拡大



令和7年度「食パラダイス鳥取県」特産品コンクール菓子・パン部門で最優秀賞

当組合製品「白バラ牛乳生ロールケーキ」が、鳥取県主催「食パラダイス鳥取県」特産品コンクール菓子・パン部門で最優秀賞を受賞しました。本コンクールは、鳥取県産農林水産物を主原料とする加工食品やその特徴を生かした製品を表彰・PRし、販路拡大や新商品開発を促進することを目的としています。特設サイトやラジオ、道の駅での展示販売を通じ、より多くの方に当組合商品の魅力を伝えていきます。



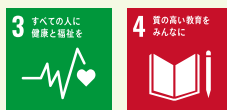
SDGs TOPICS 9 販売部

イベントへの出展



大阪・関西万博初日に「白バラ」が登場 来場者に白バラ牛乳をPR

4月13日、大阪・関西万博の夕食パビリオン「宴～UTAGE～」で、鳥取県の体験プログラムが開催されました。当組合製品と県産フルーツソースを使ったパフェ作りを約80名が体験。平井知事らが来場者にプッシュクリームと白バラ牛乳を振る舞い、全4回のイベントは大盛況でした。参加者から「アイスがおいしい」「鳥取に行ってみたい」との声も上がり、鳥取の食と白バラ商品の魅力を発信できました。



SDGs TOPICS 10 販売部

消費者交流イベントの開催



「白バラミルクフェスタ2025」開催
牛乳の日に楽しく学ぶ牛乳の魅力

6月1日、大山まきばみるくの里で「白バラミルクフェスタ2025」を開催しました。「牛乳の日」に合わせ、酪農や牛乳の魅力を楽しく学び、消費拡大を目的としたイベントで、多くの来場者でにぎわいました。会場では、殺菌温度が異なる3種類の牛乳の飲み比べ体験やウォークラリー、酪農家によるバターづくり体験を実施。参加者からは「味が違う!」などの声が上がリ、体験を通じて牛乳の魅力を発信できました。



SDGs TOPICS 11 総合企画室

職場交流の促進



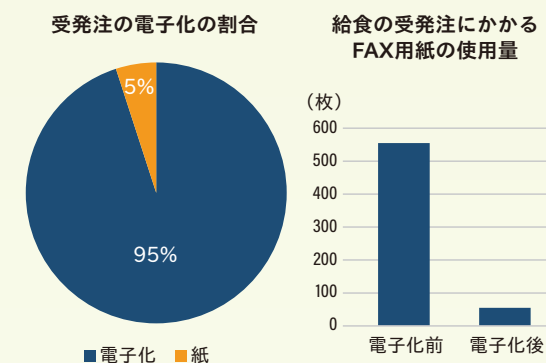
「組合長とのランチ交流会」
より良い職場を目指して

職員同士や組合長との交流を深めることを目的に「組合長とのランチ交流会」を開始しました。2025年6月から翌年2月まで全27回開催し、対象職員約200名が参加します。各回さまざまな部署から参加者が集まり、普段話す機会の少ない悩みや提案を他部署や組合長と直接共有することができています。意見交換を通じて職場環境の改善や業務の向上につなげていきます。



SDGs TOPICS 12 総合企画室

デジタル化の取り組み



受発注業務のデジタル化
ペーパーレスと省力化に貢献

2024年に販売請求書の電子発行システムを導入したのに続き、2025年には学校給食の受発注業務の電子化に取り組みました。これにより受発注業務の約95%が自動化され、給食の受発注にかかるFAX用紙の使用量は約9割減少し、月あたり約500枚の削減効果が得られました。また、作業を自動化したことで1日あたり3~4時間の作業時間を削減し、大幅な省力化を実現しました。

2025 地域貢献活動

Local contribution activities



全国学校給食週間にあわせて 鳥取県内の小・中学校で 出前授業

1月

全国学校給食週間に合わせて、給食センターの依頼を受け、鳥取県内の小・中学校を訪問し、生産者や販売部職員が出前授業や交流会を行いました。子どもたちに、楽しみながら酪農や牛乳について学んでもらう機会となりました。



大山の美化を推進する会より 感謝状贈呈

6月

国立公園大山で実施されている「大山一斉清掃」に継続的に参加し、大山周辺の美化活動に貢献してきました。その功績が認められ、大山まきばみるくの里が「大山の美化を推進する会」より感謝状を贈呈されました。



地域環境保全活動 (琴浦町 逢東海岸)

6月

一般社団法人 日本乳業協会の取り組み『全国一斉地域清掃活動にチャレンジ』に賛同し、逢東海岸を地元の小学生約40人と一緒に清掃しました。



「全国高校生手話 パフォーマンス甲子園」へ協賛

9月

「手話の聖地」として鳥取県が進める社会づくりに賛同し、「第12回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」への協賛を行いました。



鳥取すごい！ライド2025へ 商品協賛

10月

「鳥取すごい！ライド2025」へ牛乳・乳飲料を提供。自動車と自転車の共存を図り鳥取の魅力を発信する本イベントで、当組合製品もその一つとしてPRしました。



「白バラ牛乳卓球交流イベント」開催 9月

当組合主催の交流イベントに、特別講師として卓球日本代表の松平 賢二選手を招き、鳥取県の子どもたちに卓球の技術指導を行いました。あわせて牛乳の魅力伝え、スポーツと食の大切さへの理解を深める機会となりました。



日本海駅伝ゼッケンスポンサー 10月

新日本海新聞社主催「第45回日本海駅伝競走大会」のゼッケンスポンサーを務めました。ブース出展も行い、白バラ牛乳の認知拡大に取り組みました。



「大山の頂上を保護する会」へ寄付金贈呈 12月

大山の環境保護のため「大山の頂上を保護する会」へ寄付金を贈呈しました。大山頂上周辺の自然環境保護および登山道の維持・保全に使用されます。



「ジャパン・フード・リンク」加盟 食品の提供を開始 11月

一般社団法人ジャパン・フード・リンクへ加盟し、当組合の本所工場と岡山営業所を提供事業所として登録しました。販売期限切れなどの理由から、まだ食べられる状態で廃棄される食品を子ども食堂や更生保護施設へ提供し、食品ロス削減を目指します。



「ほくほく食堂」へ商品提供 3月・7月・12月

学校が休み期間中の子どもたちや、ひとり暮らしの高齢者の居場所づくりを目的とした北栄町の子ども食堂「ほくほく食堂」へ組合製品の提供を行いました。



大山乳業農業協同組合のSNSはこちらから！



Instagram



facebook



Youtube



X



大山乳業農業協同組合



WEB SITE